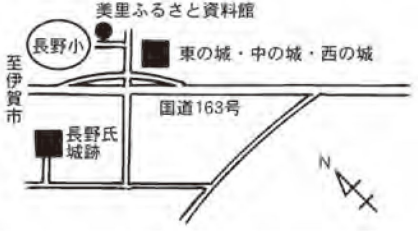
国指定史跡　長野氏城跡（美里町桂畑・北長野）

長野氏は室町時代から戦国時代にかけて、伊賀との境に近い現在の美里町長野を本拠とし、伊勢国の安濃郡から奄芸（あんき）郡（現在の津市北部から鈴鹿（すずか）市南部）一帯に勢力を振るった国人（こくじん）領主である。



長野氏城跡のうち、桂畑の山頂にある城跡は地元では古くから「城ノ台（しろんだい）」と呼ばれている。城跡は標高540メートルの山頂に築かれており、本来は麓の中野や桂畑の登城口から尾根づたいに山道を１時間半ほど登らなければならないが、今は桂畑から城跡まで林道を利用して車で登ることができる。

途中から未舗装の細く険しい林道に入って車に揺られること数分、ようやくたどり着いた山頂には、三方を低い土塁で囲まれた約20メートル×40メートル四方の主郭があり、その周囲には階段状に幾つか郭が築かれていた。また、城跡から西へ300メートルほど山を分け入ったところには「馬場」と呼ばれる平坦地があり、そこには今も水が滴る水場があった。

この城の築造時期は明らかではないが、南北朝期の争乱を伝える「太平記」には、幕府から離反した伊勢守護仁木義長が「長野ノ城」に長期にわたり籠城したと記されている。今となっては、まさに「兵（つわもの）どもが夢の跡」であるが、城跡から切りたった深い谷を見下ろしてみると、幕府軍が攻めあぐねた難攻不落の要害であったこともうなずける。

長野氏城跡

また、この城の東約3.5キロメートル、伊賀街道沿いの北長野の丘陵にも、地元で「じょうやま」と呼ばれる長野氏の東の城・中の城・西の城がある。

（「広報津」平成18年10月１日号）